



にしじ

認定看護師・専門看護師
実践発表会 P2~3

救命救急センター ドクターヘリ見学会 P4~5

第61回 学会出張報告 P6

治験を実施しています P7

高知医療センター イベント情報 P8

2

FEBRUARY 2019 Vol.160



12月22日開催のドクターヘリ見学会にて くろしおくと勇気の花号 ©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

広げよう！
地域とつながる
看護の力

実践発表会

2018年12月1日(土)、くろしおホールで第5回認定看護師・専門看護師実践発表会を開催いたしました。この会は、多施設の看護師が、認定看護師・専門看護師の役割や活動を理解し、有効に活用することで看護の質の向上を図ることや、共に学び交流を深めることで施設間の連携強化につなげることを目的としています。5回目となる今年は、「広げよう！地域とつながる看護の力」をテーマに、基調講演を、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク下元佳子先生にお願いし、「高知県の医療や看護、資源の現状や課題～急性期から在宅まで職員と対象者双方を守るケアをつなぐ～」というテーマでお話しいただきました。また、演題発表は、院外より7題、院内より3題の計10題が行われ、90名の参加者を交え、活発な意見交換がなされました。施設の枠を越えて活動の状況を知ることができ、自身の活動の参考にすると共に、多施設間の連携に役立つ有意義な時間を過ごすことができました。

実践発表会終了後の交流会には、院内外から36名の参加があり、和やかな雰囲気で見聞交換が行われました。交流会終盤では、演題発表時の写真などをスライドとして上映し、笑顔あり、感激ありの時間となりました。

実践発表会の開催にあたり多くの皆さまにご協力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。地域との連携を念頭に、今後も院内外の看護師と協力しながら実践発表会を運営、継続していきます。

外来 がん看護専門看護師 北添 可奈子



【基調講演】

高知県の医療や看護、資源の現状や課題

～急性期から在宅まで職員と対象者双方を守るケアをつなぐ～

【講師】

一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク
代表理事 下元 佳子先生

今回、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークの代表理事、下元佳子先生をお招きして、「高知県の医療や看護、資源の現状や課題～急性期から在宅まで職員と対象者双方を守るケアをつなぐ～」というテーマでご講演をいただきました。下元先生は「どんな状態でも(病気や障害の有無を問わず)どこで暮らしていても(病院や施設、在宅を問わず)人としてあたり前の生活が保障される地域づくり」を目的に活動されています。高知県の医療や看護、資源の現状や連携について知ること、自分たちの今後の活動に活かしたいと考え、拝聴させていただきました。

高知県の高齢化率は全国平均を10年先行して上昇、また人口減少率は全国平均を15年先行しており、要介護度認定者数は、介護保険制度開始時より約2.6倍に増加しているという現状がありました。それに伴って介護福祉士など資格取得者の人材不足、介護保険サービス使用料の国の財政圧迫などの課題があり、今後の対策として、ヘルパーだけでなく、介護福祉士の介護助手をつくるなど職種を増やし、役割や機能を分化してサービスの種類を多くする、ポイントをねらったサービスで提供期間を短くしていくなど、工夫が必要になるということでした。

また高知県の介護施設は、介護職員が先駆けてノーリフトについて学び実践しており、全国から視察に来られているそうです。急性期病院はまだまだ2人で抱えあげる動作で移乗している現状があります。ぜひ高知家統一基本セミナーに積極的に参加し、ノーリフトを広めてほしいとの話があったので、わたしたちも積極的に参加し、ノーリフトを広めていきたいと思えます。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 久保 光恵



【実践発表】

救急外来における疼痛管理プロトコルの 運用と意義

～命を救い生活を支えることができる救急医療を目指して～

救急看護認定看護師 大麻 康之

痛みによる苦痛を感じている場合、痛みをとってほしいと誰もが願うものです。また、痛みは苦痛を与えるだけでなく、生活に大きな支障を来します。救急の現場においても痛みに対するケアは、必要不可欠であるといえます。もちろん、命を守るこそが救急の現場では最も重要であり、医療者はそこに対して全力で向き合っています。そのため、救急外来に搬送される患者さんの多くは治療や処置が優先され、痛みに対するケアが十分にできていないという現状がありました。

そこで、どうすれば救急外来でも効果的に痛みを軽減することができるかを看護師・医師で検討しました。その結果、救急外来で使用できる「疼痛管理プロトコル」を作成することになり、このプロトコルを活用して、患者さんの痛みを早期に軽減することができるシステムをつくりました。それによって、以前より多くの患者さんの痛みを早期に軽減することができるようになりました。

もちろん、この結果は、プロトコルがあったからだけではありません。どんなにシステムを改善しても、それを使うのは「人」です。命に関わる緊迫した現場のなかでも、患者さんの痛みをとることにに対して誠実に向き合うことのできる看護師・医師の強い思いがあるからこそ実現できているのだと考えます。

高知医療センター救急外来では、今後も県民の皆様の命を救うと共に、患者さんの痛みを早期に取り除き、生活を支えていく医療を提供できるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。





救命救急センター

平成30年12月22日(土)、当院地上ヘリポートにて、救命救急センター ドクターヘリ見学会を開催しました。雨が心配されましたが、朝少し降ったものの、開催時刻にはすっかり降り止み、暑いぐらいの晴天に恵まれました。

会場には総勢430名(うち小学生222名)が足をお運びくださり、ドクターヘリに乗り写真を撮ったり、くろしおくんと遊んだり、くじびきを引いたり…とそれぞれ楽しんでいました。



地上ヘリポートでは、西田救命救急センター長、くろしおくん、FMRCの運転手に扮したあんばんまんが皆さんをお出迎え♪



なにが当たるかな～ ドキドキ♡



あちゃ～、トミカのドクヘリはずれた～

らくがき帳当たったよ～！



くろしおくん
あくしゅして～！





ドクターヘリ 見学会



© やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV



FMRCをバックに“ハイ、チーズ” (^_^)



みんな来てくれてありがとう!



午後の部が始まり、45分ほど経過した頃、出動要請があり、ドクターヘリは飛び立ちました。要請がかかっているドクター、ナースらの迅速な行動、また、ヘリが飛び立つ様子を見た来場者さんから、「おおお〜」という声があがっていました。
ドクターヘリ見学会は、また今年も開催を予定しています。皆さん、是非遊びに来てください★



第61回：医療センター職員による学会出張報告

ASEAN Laparoscopic Colorectal Conference 2018 in タイ バンコク

2018.5.18~19 消化器外科・一般外科 稲田 涼

先日、タイのバンコクで行われたASEAN Laparoscopic Colorectal Conferenceという講演会で、発表する機会をいただきましたので、ご報告させていただきます。

今日、外科領域において、低侵襲な(体に優しい)腹腔鏡手術が広く行われております。腹腔鏡手術とは、体に小さい穴を空け、内視鏡を腹腔内に挿入し、モニター上に映し出された映像を見ながら行う手術です。従来の開腹手術と比較し、小さな創で行うことができ、美容的に優れるのみならず、術後の疼痛も軽く、回復が早いという利点があります。大腸癌に対しては、1990年代初頭より開始され、私ども高知医療センターでも積極的に行っており、現在、約80%の症例で、腹腔鏡手術を行っております。

また大腸癌手術における基本は、腫瘍部分の腸管およびリンパ節の切除(郭清)です。日本において、進行癌に対して3群リンパ節郭清(D3)が標準治療とされておりますが、日本における治療成績が、欧米と比較し、明らかに優れたものであることが近年示され、この術式が、世界の標準術式となりつつあります。

今回、腹腔鏡で行う大腸癌のD3郭清の講演依頼を受け、タイで発表してまいりました。約25分間の講演で、日本の大腸癌の標準治療やD3郭清のコンセプトを説明した後、高知医療センターの紹介を行い、実際の腹腔鏡手術のビデオを供覧しながら手術方法をお話ししてまいりました。

そもそも、この国際学会で発表することになったのは、タイの外科医の1通のメールからでした。私は、2010年から2年間、国立がん研究センター中央病院で大腸外科のチーフレジデントとして、修練しておりましたが、その際、タイからSiripong先生という外科医が1年間留学されました。その彼から、6年ぶりに、「Do you do laparoscopic colorectal surgery?(腹腔鏡の大腸癌の手術やってる?)」、「今度、バンコクで腹腔鏡の研究学会するから手術のビデオ見せてくれない?」と突然メールが来ました。彼が主催の小さな勉強会だと思い、軽い気持ちで「良いよ」と返事をしてしまいました



後列左から4番目が稲田医師



が、直前に来た案内状で想像していたものと全く規模が違うことを知りました。アジア7カ国(日本、韓国、タイ、ミャンマー、台湾、シンガポール、マレーシア)の大病院や大病院の腹腔鏡手術のトップランナー 15人位が、150人以上の聴衆の前で講義する会であり、そのような中、日本の大腸癌の手術について講演してまいりました。発表のあとの質疑応答や討論などでは、乏しい語学力から少し悲惨な状況になりましたが、やはり演者も聴衆も、全員外科医なので、手術のビデオで十分なインパクトを残すことができたと思います。

他のアジアの国の先生方の講演を聞き、また実際にお話してみても、レベルの高い治療を行っている事を改めて知りました。そして皆、非常に熱心で、日本や韓国の有名な病院に、積極的に手術の勉強に行かれており、私どもも一生懸命頑張らなくては、すぐに追い抜かれてしまうという危機感を抱きました。

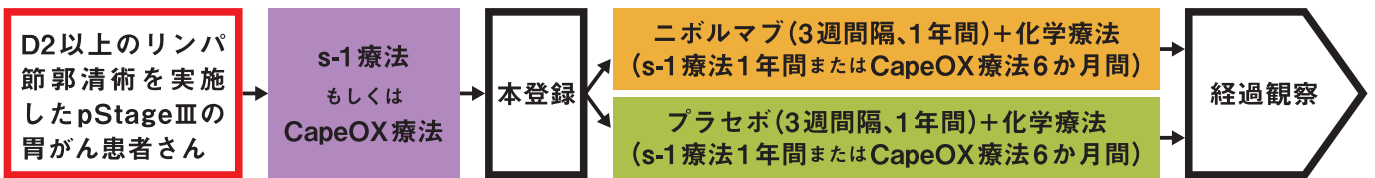
今回、2泊4日の弾丸旅行となりましたが、夜にはSiripong先生はじめ、タイの先生方の暖かい歓待を受けました。私の大腸外科の師匠は、がんセンターにいらっしゃった森谷宜皓先生ですが、その非常に非常に厳しいご指導のもと、Siripong先生と一緒に多くの手術に入ったこと、また忙しい仕事の間に、築地の寿司屋やインド料理屋に行ったことなど、そうした苦楽をともにしたことが、今回の招待講演や歓待につながったと思うと、人と人とのつながりは大事だなと改めて思いました。

彼らに負けずに、新しい知見を取り入れるとともに、目の前の一人ひとりの患者さんに対して、妥協することなく全力で治療を行っていこうと決意を新たにしました。今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

胃がんの術後補助化学療法適応の患者さんにおける免疫チェックポイント阻害薬を使う治験を実施しています

使用される治験薬：ニボルマブ

治験デザイン



1：1でランダムに割り付けられます

ご参加いただける患者さん



以下に該当する方が主な対象となります

- ◆年齢（同意取得時）：20歳以上、80歳以下
- ◆ステージⅢの胃がんであると診断されているが転移が見られていない
- ◆胃がんに対して手術以外の前治療を受けていない
- ◆提供できる腫瘍組織がある、もしくは腫瘍生検ができる

※上記の基準はあくまで一部を抜粋したものであり、該当していてもその他の基準を確認し、この治験に参加できないことがありますのでご了承ください

胃がん手術予定の患者さんがいらっしゃいましたらご紹介していただきますようお願いいたします!!



連絡先

地域医療連携室 TEL：088-837-6700 FAX：088-837-6701

月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
2月	9	土	高知医療再生機構 小児科専門医養成支援事業 (参加費無料・申込不要)			
			内容	筋疾患の診断と治療 デュシェンヌ型筋ジストロフィーを中心に	場所	高知医療センター がんサポートセンター 4階 研修室
			時間	15:00～16:15	対象	医療関係者
			講師	国立精神・神経医療研究センター 筋疾患センター長 小牧 宏文 氏		
	お問合せ: 高知医療センター 小児科 西内 TEL:088(837)3000(代)					
	17	日	高知医療センター 地域医療連携研修会 (参加費無料・申込不要)			
			内容	病院歯科口腔外科のこれからの役割	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	14:00～15:30	対象	医療関係者・一般
			講師	高知医療センター 歯科口腔外科 銅前 昇平・立石 善久・原 慎吾・福留 麗実		
	お問合せ: 高知医療センター 地域医療連携室 TEL:088(837)3000(代)					
	17	日	高新・高知医療センターがんセミナー (参加費要・申込要)			
			内容	がんのがんの放射線治療について	場所	高新文化教室(高知放送南館3階37号室)高知市本町3-3-39
時間			10:30～12:00	対象	一般(40名)※先着順	
講師			高知医療センター がんセンター長 西岡 明人			
お問合せ・お申込み: 高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回						
21	木	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修 (参加費無料・申込要) ※申込期限:2月11日(月)				
		内容	成人BLS/AED研修	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室	
		時間	9:00～12:00	対象	看護師(3名)	
		講師	高知医療センター BLSインストラクター			
申込用紙は当院ホームページ 看護師他施設公開研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上 FAXにてお申し込みください。申込代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします FAX:088(837)6766 お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(有澤・藤本・川田) TEL:088(837)3000(代)						
3月	9	土	平成30年度 第2回 学術講演会(高知医療センター歯科口腔外科と高知市歯科医師会との合同研修会) (参加費無料・申込不要)			
			内容	開業医にもできるがん患者の口腔管理	場所	高知県歯科医師会館 会議室1・2 (高知市丸ノ内1丁目7番45号 総合安心センター2階)
			時間	19:00～21:00	対象	医療関係者
			講師	杉歯科クリニック 院長(金沢市)、大阪大学歯学部非常勤講師 杉 政和 氏		
	お問合せ: 高知医療センター 歯科口腔外科 立本 TEL:088(837)3000(代)					
	17	日	高新・高知医療センターがんセミナー (参加費要・申込要)			
内容			肝臓がん、胆管がん、膵臓がんの最新治療	場所	高新文化教室(高知放送南館3階37号室)高知市本町3-3-39	
時間			10:30～12:00	対象	一般(40名)※先着順	
講師			高知医療センター 消化器外科・一般外科 医長 岡林 雄大			
お問合せ・お申込み: 高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

にじ2月号をお送りします。今月号は、認定看護師・専門看護師の実践発表会、ドクターヘリ見学会、稲田涼先生のバンコクでの学会出張報告、治験のお知らせを取り上げています。当院では、病院内にいる私でも知らない様々な医療が展開されています。このような多様な医療内容をブラックボックスにしないために、医療技術や治験を広報誌でお知らせすることが大事であると思います。また院外に開いた発表会やドクターヘリの見学会は高知医療センターの機能の一部をお知らせするいい機会でした。このようにアピールする場を多く作り、県民のための高知医療センターであると認めてもらうように努力をしていきたいと思ひます。(広報委員 澤田)



平成31年2月1日発行
にじ2月号(第160号)
毎月発行
編集者: 広報委員会
発行者: 島田 安博
印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp